

第7回北九州市まち・ひと・しごと創生推進協議会での主な意見

総合戦略全般

- ・ 総合戦略の進捗状況、K P I の評価などの報告の仕方やK P I の設定の仕方などを工夫・見直すべき。
- ・ 3割の事業の達成状況が未達であるが、データの分析が必要と考える。データ分析をきちんと行えば、未達の理由もわかるのではないか。
- ・ 基本目標の方がK P I よりも重要ではないか。数値達成だけが目標にならないようにすべきである。事業自体が基本目標の達成にリンクしているか精査が必要である。
- ・ K P I の達成状況というよりは、各事業の費用対効果をしっかりと検証すべき。
- ・ もっと施策を重点化すべきで、重要なのはK P I (事業) の数ではない。協議会も何の議論をするのかによって構成メンバーをもう少し細分化して重点的にやったほうがよい。例えば、地元就職プロジェクトのような組織を作り、定期的に議論することも必要。
- ・ SDGs に当てはまる項目(事業)がかなり多いのであれば、例えば総合戦略中の事業にSDGsのマーク(ロゴ)を貼れば良いのではないか。SDGsの取組に積極的に本市が関わっていると市民に訴えればシビックプライドを向上させることができる。
- ・ 大学生の意見を政策に反映すべき。

I 北九州市にしごとをつくり、安心して働けるようにする

- ・ 市内のIT系企業の求人を増やしてほしい。
- ・ 創業支援が重要であり、重点化すべき。
- ・ 地元就職率は横ばいとはいえ、人口減少・東京一極集中が続く中、健闘しているといえるのではないか。ハードルは高いが、引続き学生のニーズや現状の課題をしっかりと分析し、成果が上がるよう取組むべき。
- ・ 学生を対象に市内企業の認知度調査を行った結果、市内企業の半数しか知られていない。B to B企業においてはその認知度が低かったため、B to B企業の認知度向上が必要。
- ・ 地元就職率を上げるためには市内大学のブランド力向上が必要。市内大学のブランド力が上がれば、必然的に市外から学生も集まり、企業も進出してくるのではないか。
- ・ 市内大学の地元就職率という項目を基本目標としているのは良い取組であるが、工業高校や商業高校についても同様に取組んでほしい。

- ・ 給料が安くても生活コストが安いいため、生涯収支が都市部と変わらないことはアピールできると思う。
- ・ 非正規社員についても、何らかのフォローをしてほしい。
- ・ 人手不足が生じている企業は、運送業、建設業などの現場で働く仕事に多い。それらの仕事を学生のほとんどが希望しておらず、学生が希望する事務系の仕事を増やすことが重要。
- ・ 中小企業に対して官は IoT、AI を活用して生産性を上げろというが、官公庁にそれを活用すべきではないか。それを行えば、優秀な人材が官から民へ移動するので人手不足が解消するのではないか。
- ・ 奨学金返還支援事業についてはかなり効果があると思う。今後も充実していただければありがたい。
- ・ 市内大学に限定せず、福岡市等から学生・若者を呼び戻す取組にも力を入れてほしい。

II 北九州市への新しいひとの流れをつくる

- ・ 観光客数、交流人口の実績は上がっている。これは地方創生の成果ではないか。
- ・ 北九州空港は、車を使う利用者にとっては便利が良いが、公共交通を利用して空港に移動する者にとっては不便。空港へのアクセスを改善すれば利用が増えるはず。
- ・ 北九州市の健康寿命が全国的に悪い。特に男性が悪く、2歳ほど全国平均より低い。健康寿命を延ばすという視点での取組を強化すべき。
- ・ Uターンの取組は、東京、大阪など大都市の人だけを対象とするのではなく、地方に住む人も対象にしてはどうか。
- ・ 外国人留学生のホストファミリーに登録し、留学生に対して日本の文化体験（振袖の着付け、お宮参り、七五三、茶道）をさせてもらっているが、本人や家族も大変喜んでいる。帰国後も地域の方たちを北九州市に連れて来てくれることも多い。北九州市のために役に立てればと思い、現在も活動を続けている。

III 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・ 結婚年齢については、働き世代の結婚時期が遅くなるのは理解できるが、北九州市としても婚活事業力を入れて欲しい。
- ・ 教育の現場では国際教育などに力を入れている。仕方がないことかもしれないが、結果的にやる気のある若者が街から流出してしまう。

IV 時代に合った魅力的な都市をつくる

【にぎわいの創出】

- ・ 映画の街北九州と言われているが、本市を舞台とした映画も誘致してほしい。
- ・ ミクニワールドスタジアムにコンサートなどの大規模イベントを誘致してほしい。福岡市にはイベンターが多数集結しているが、本市にはそういったイベンターが存在しない。今後はイベンターの誘致、育成が必要ではないか。
- ・ 北九州市は商店街の人の流れも多くなったと実感しているが、今以上に北九州市をいかに元気にするか、わくわくする街にしていく仕掛けを考えないといけない。「北九州市は良いところだから北九州市で働こう」と思わせる活気ある街にしなければならない。

【情報発信】

- ・ 北九州市の良いところをブランド化することが重要である。それがシビックプライドの醸成に繋がっていく。
- ・ 北九州市には十分な魅力がある。もっと効果的な情報発信に力を入れるべき。
- ・ 東京事務所の場所が分かりにくく目立たない。もっと工夫して活動し知名度を上げるべき。
- ・ もっとSNSを活用するなど、本市プロモーションの改善に注力すべき。
- ・ 本市を代表する企業と連携したプロモーションに注力すべき。